

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組（改善策等）
1 生徒一人ひとりの能力に応じたきめ細やかな学習指導により、基礎学力を養い、学校全体の質の向上に努める。	① 授業への意欲を高め、基礎学力の定着・向上を図るため、指導及び評価の方法を工夫する。	各教科において基礎学力が向上した生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	A=11% B=22% C=44% D=22%	確かな学力の定着のため、学習への興味関心、学ぶ意欲の向上を目指し、ICT機器の活用、めあての板書など授業改善を学校全体で行っている。また、チームティーチングや学習支援サポート、少人数学習など基礎学力が身に付いていない生徒へのきめ細かな指導を継続して行っている。8月におこなわれた教員アンケートでは、C、D評価（70%未満）が2/3の割合となっている。今後とも様々な工夫を取り入れ、生徒の基礎学力の向上を図っていききたい。
	② 授業力の改善や教員としての資質の向上を図るため、校内研修を充実するとともに、校外への研修に参加する。	校外及び校内への研修に A 7回以上参加した。 B 6回参加した。 C 5回参加した。 D 4回以下であった。	A=0% B=0% C=22% D=78%	7月末段階での調査のため、回数は多くはないが、今後の研修によって参加回数は増加すると見込まれる。今後の研修予定を周知していくとともに積極的に参加するように働きかけていきたい。研修の回数とともにその内容を整理し、今後の校務や授業の改善につなげていきたい。
	③ ICT機器を活用するなどして、授業改善に努める。	ICT機器を授業に積極的に活用している教師が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	D (11%)	ICT機器を積極的に活用していると回答した教員は9人中1人であったが、必要に応じて活用している教員は6人いた。アクティブラーニングも含めてICT機器を生かす研修等への参加を呼び掛けるとともに、授業への生徒の意欲を高めるため、より効果的な活用を図っていききたい。
2 基本的な生活習慣を確立するとともに、いじめや暴力行為等の未然防止の取組を充実し、規範意識の向上を図る。	① いじめや暴力、携帯電話等を介した不適切な書き込みの未然防止のため、集会や研修等の充実を図る。	いじめや暴力等に関する特別指導件数が A 0件である。 B 1件である。 C 2件である。 D 3件以上である。	A (0件)	5～7月期は、生徒指導関係の教室や講座が多く、その都度、事後アンケートで振り返りをすることにより、いじめや暴力、携帯電話等に関するトラブルの未然防止に非常に効果があったと思われる。また、特別指導歴のある生徒に対する丁寧な観察と声かけ等も継続して行っている。今後も、集会や教室指導等で様々な工夫を取り入れ、さらなる生徒の情緒の安定を図り、安心して安全な学校づくりを目指したい。
	② 服装や行動様式に関して適切に実践できるよう、個別指導を充実する。	服装や髪型等のきまりを意識して行動していると思う生徒が A 90%以上いる。 B 80%以上いる。 C 70%以上いる。 D 70%未満である。	B (83%)	7月の生徒による自己評価アンケートで「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計が、3年次生の67%から1年次生の90%とばらつきがあったが、全体で83%となった。何か指導された時に修正してその場をしのげばいいというのではなく、3・4年次生の個別指導に力点を置きながら、常に自分の現状に満足せず、更に意識を高めて行動する力を身につけさせていきたい。
	③ 基本的な生活習慣を確立するため、家庭との連携を密にするとともに、朝食摂取習慣の定着を目指し、指導を工夫する。	朝食を毎日食べる生徒が A 80%以上いる。 B 70%以上いる。 C 60%以上いる。 D 60%未満である。	B (71%)	「朝食を毎日食べて登校する」という生徒が、昨年同時期より全体で6%増加している。この状況は、3年次生の9割近くが朝食を食べるようになってきた事が大きく反映している。また、1年次生と4年次生では7割を下回る状況で、学年差が大きい。卒業を前にした4年次生の状況が悪化していることから、原因の聞き取りと分析、個人指導、保護者や進路担当との連携を一層図るとともに状況改善に向け、厚生委員の活動を生かすなど、指導を充実していききたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の取組（改善策等）
<p>3 教育活動全体を通じて主体性やコミュニケーション能力等の社会性を身に付け、社会人として必要な基礎能力を育む。</p>	<p>① 生徒が自主的に活動し、自分の考えを発言できるよう、授業にアクティブラーニング等を積極的に取り入れる。</p>	<p>授業中、自分の考えや意見を述べることのできる生徒の割合が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。</p>	<p>A (71%)</p>	<p>昨年度の同時期調査の55%を16ポイント上昇している。アクティブラーニングの手法を取り入れた、グループ学習や調べ学習など発表や、活動する授業が増え、自分の意見や考えを言う機会が増えているためと思われる。今後も継続して生徒が主体的に取り組む授業展開を行い、主体的に考え、自分の言葉でコミュニケーションを図る能力の向上を図っていきたい。</p>
	<p>② 定通大会、体育祭、文化祭、球技大会等において、主体性を持って取り組み、自己有用感と協調性を高める工夫をする。</p>	<p>定通大会、文化祭、球技大会等の各種行事に、 A 積極的に取り組んだ。 B だいたい取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。</p>	<p>A = 65% B = 23% C = 8% D = 4%</p>	<p>7月の自己評価アンケートでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が88%で、昨年度と比較すると「よくあてはまる」が43%から65%へと大幅に増加した。 前期に行われた遠足、定通大会等の行事では欠席者はほとんどなかった。また、定通大会に向け強化練習を生徒たちが自発的に行う姿が見られた。また、選手のサポートを進んで行う生徒もいた。 後期に行われる体育祭や文化祭等の生徒会行事では、生徒会を中心に生徒主導で計画や運営をするなど生徒一人ひとりが活躍できるよう工夫に努めていきたい。</p>
	<p>③ 校歌を大きな声で歌えるようにするため、LH等を利用した練習機会を設定したり、集会や行事ごとに歌う場面を設けて、指導する。</p>	<p>各種行事で校歌を、 A 大きな声で歌うことのできる。 B だいたい歌うことのできる。 C あまり歌えない。 D ほとんど歌えない。</p>	<p>A = 19% B = 42% C = 23% D = 16%</p>	<p>集会ごとに校歌を歌い、不十分な場合は指導と練習を行った。校歌の歌詞及び通釈を教室に掲示し、LH等で指導した。しかし自己評価アンケートでは、A+Bの合計が昨年度とほぼ同じ割合で、目標の80%には達しなかった。2年次生は昨年度同様に概ね声が出ているため、後期は1年次生の指導を特に強化して卒業式や入学式において、校歌を大声で歌えるよう取組んでいきたい。</p>
<p>4 キャリア教育を推進し、就労意識を高めるとともに、一年次からの進路指導を充実し、卒業生徒全員の進路実現を目指す。</p>	<p>① 進路実現を図るため各学年ごとに、進路意識の向上を目指した指導を計画的に行う。</p>	<p>具体的な進路目標を持っている生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。</p>	<p>C (75%)</p>	<p>生徒による自己評価アンケートで「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計は3・4年次生で80%を超えているが、1年次生は58%、2年次生は76%であった。全体では、前年度から7%アップした。特にジョブ体験学習（2・4年次生）では94%、進路ガイダンス（3・4年次生）では89%の生徒が意識向上につながったと答えている。後期にも進路ガイダンスを計画しており、さらに早い段階からの進路実現に向けた意識の向上を目指したい。</p>
	<p>② 生徒および保護者の進路志望を実現するべく、関係機関との連携を密にし、生徒の能力・適性を生かした進路決定に努める。</p>	<p>進路実現率が A 100%である。 B 90%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。</p>	<p>就職は11月下旬 進学は12月下旬 に中間集計。 2月末に最終集計。 ()%</p>	<p>今年度の卒業予定者は14名で、進学希望者4名、就職希望者10名である。夏季休業中を中心に進路実現に向けて作文や面接指導等を実施した結果、進学志望者のうち3名はAO入試で内定を得、就職希望者のうち8名は学校推薦で、現在5名が内定を得ている。2名は縁故である。今後、担任や関係機関と連携を密にし、目標達成に向けて取り組んでいきたい。</p>